

はじめまして、祖母谷に引越してきて5年、小学生とわんぱく3歳児を育て中のママです。10年以上インテリアだった高校生のときに8万円で購入した中古の真つ赤なエレキギターを、ようやく手放すことができました。いや〜切ないですね。青春時代に別れを告げるってこういうことかああ、としみじみしちゃいました。でも、娘とはじめてウクレレのおかげで、ふっきました。今はハワイアンとか、ドラーエさんの曲とか弾いています、笑。

さて、自己紹介が長くなりましたが、どうぞよろしくお願ひします。

毎日バタバタ暮らしている中で、子どものやることは親の責任、ちゃんとみてなきや。

って思いつめて、ツラいときがありませんか。そんなとき、地域の人たちに優しい声をかけてもらえる、ふつと肩の力が抜けて、心強いですよね。地域のおじさまやおばさまが声をかけてくださったのも嬉しいし、頼れる幼稚園や保育園の先生たちのお力は絶大。でも考えてみたら、そんな方たちのこと、よく知っているようで知らないことも多いですよ。休みの日は何をしているのかとか、子どものころどんな遊びをしていたのかとか。せつぷくなので、ちょっとインタビューしてみました。

今から70年もむかし、戦後すぐのまだ何も無い中、ご自宅を開放して始められたゆかり文化幼稚園。そんな大変な時代に、なぜ幼稚園？と周りの人たちは思われたのでしょうか。

きつと、藤田夫妻はこれからは幼児教育によって平和な世の中をつくらう、と決意されたのでしょうか。そんなすてきな両親に育てられた、現副園長の高瀬眞美先生は、子どものころはとてもおとなしい女の子だったそう。今では幼稚園になくてはならない大黒柱のような頼れる存在です。

子どものころはどんな遊びをされていましたか？

眞美先生「私は内弁慶で情けない子でしたから、兄や友達にお味噌みたいにくっついて遊んでいました。子どものころは、戦後すぐでこのあたりは田んぼや

のつばらがあつて、たぬきやいたちなんかたくさんいました。近所に同じくらい年の子どもが大勢いて、自然にみんなであーい遊んでいました。田んぼのあぜ道で落っこちてどろどろになったり、仙川にじゃぶじゃぶ入って、うねりにはまっておぼれそうになったり、今の子にはとてもやらせられない遊びをしていました。笑。

すごい、うらやましいっつ。仙川で川遊びできたらいいのにいつも思いながら通っていましたが、やっぱり昔は子どもが遊んでいたんですね。

ところで、いたずらして叱られたことってありますか？

「2つ上の兄とつりがね池までザリガニ釣りに行つて、帰りが7時くらいになって、家に入れてもらえないこともあつたわね。子どもは子どもだけで遊んでいる時代でしたから、今は道を歩くだけでも車が多いから、大人が見ていないと危ないですよ。夏休みに軽井沢の母の実家に行つたとき、小学校のプールに浮かんでいた戸板を船にして乗って遊んで、落っこちてびしょびしょになって、近くの別荘の方に替替えさせてもらったこともありました。とにかく子どもだけで危ないことを平気でする時代でした。今じゃ考えられないでしょう」

わー、ダイナミックに遊んでましたんですね。

大人が見ていたら危なくて絶対に止めますけど、子どもってほんとに怖いもの知らず。笑。

幼稚園の先生を目指されたのはいつごろからですか？

「私は四人兄妹で、一番どんくさい子でしたから、小さいころからあなは将来幼稚園の先生になるのよと洗脳されてました。笑。

でも、実際に幼稚園に入つてみたら遊ぶ時間もないし、大変でしょう。兄も妹もそれぞれ好きな音楽をやっているのに、自分だけやりたいことができずに損している気がしたのね。それで、音楽をやつてみようかと思つて、5年くらい勤めたときに一度幼稚園を辞めました」

まさか、眞美先生にそんな時期があつたなんてびっくりです。聞いてみないとわからないものです。長くなってしまったので、この続きは次回に。それではお楽しみに！

kanaは知りたいんです♡

アナタの事が.....



「子どもは地域のたからもの」
ゆかり文化幼稚園副園長 高瀬眞美先生

vol. 1